

巻頭言 次の火の手まで 30 年？

名古屋工業大学大学院工学研究科 教授 越島 一郎

現在、新聞やニュースで「人工知能(AI)」や「深層学習」の記事が出ない日は無いのではなからうか。電子版の日本経済新聞で今年に入ってから今日(5月26日)まで、「人工知能(AI)」は1,373件、「深層学習」は112件の記事が出ている。如何にこの2つがバズワード(特定の期間や分野の中でとても人気となった言葉: Wikipedia)であるかが伺える。

私に、「次の仕事はAI研究」と告げたのは、1985年にイラクの現場で受け取った110ボアのテレックス(若い方はネット検索)であった。受け取った時「アイ??」であったが、帰国してみると大型冷蔵庫よりも大きいLispマシンが待っていた。それ以降、80年代終わりにはニューラルネットワークをメニューに入れ、頑張ってみたものの、当時はアイデア具体化の基盤であるコンピュータが脆弱であった。AIはオモチャ程度の問題にしか適用できず、ニューラルのツールはSun EWS込みで20セットぐらいは販売したが、そもそも学習データがホストコンピュータからのテープでの受け渡しでは、ほとんど実用化できなかった。

それが、圧倒的なコンピュータパワーが容易に使えるようになり、今ブームである。次の火の手が上がるまで30年近くかかったことになる。大手企業は研究所での研究を継続していたようだが、直ぐ金にすることを考えるエンジ会社では研究継続は無理であった。省エネ技術も、ビッグデータも然り。

ひょっとするとPMIのPMBOK(1987年にホワイトペーパー)は、この30年火の手説

に当てはまり、次の火の手がそろそろ上がるのかもしれない。では、平成17年10月に設立されたP2Mで後20年、皆さんは待てるでしょうか？私は待てません。とすると、何が火付け役になるのか。AI-コンピュータパワーに相当するのは、P2M-ブレインパワーではなからうか？

私が名古屋工業大学に移ってから10年間、本学会に育てていただき、博士の学位を取得した学生は8名である。私ができることは、この8名(1名はトルコにて助教)のブレインパワー開放に、幾らかでもお役に立つことである。このため、4月から研究会を立ち上げて、月1回のペースで会合を東京で開くこととした。先日の第1回目では、ブレインパワー開放のためのストームとして、博論でスーパープログラムを提唱したKI君から「プロジェクトの“殻”を破らなければ、プログラム→スーパー→ウルトラ→・・・と屋上屋を重ねるしかない」⇒「有期性=プロジェクトにおける時間の殻」⇒「無期のプロジェクトは？」等、無理筋とも思えるアイデアも提示されました。これからどのような、奇抜なアイデアが出るのか。ともあれ、今後はこの研究会で出された「奇抜・無謀なアイデア」を本学会にて発表させて頂き、皆様を悩ますことで、皆様にも無理矢理ブレインストームにお付き合い頂いて、ブレインパワーを開放いただければ、20年と言わずに、1/3いや1/4の時間で次の火の手を上げる事が出来るのではなからうか。